

第8章

私たち若手職員が
描いていく長崎県の
水産業の将来像

私たち若手職員が描いていく 長崎県の水産業の将来像

自然環境や社会情勢の変化に適応し、地域経済を支える水産業

- 漁業者による資源管理や漁場保全の取組が結実し、水産資源の回復や藻場の再生を実感することも増え、資源を持続的に利用する意識が広がっています。
- 漁協や地域住民が中心となって藻場を再生し、ブルーカーボンを創出しながら更なる活動サイクルを生み出す好循環が生まれ、CO₂削減にも貢献しています。
- 漁業者や養殖業者はAI、IoTなどの先端技術やビッグデータ等を活用し、仕事の効率化、高収入で快適な仕事環境の獲得、海の環境変化の予測による沖合水域の活用などにより、安定した経営や新たなチャレンジを展開しています。
- 「サステナブルな漁業」を意識する漁業者と、そのマインドに共感し選んで購入する買手や消費者との関係が築かれ、受注に応じて生産する資源に優しい漁業経営スタイルも増えています。
- 若手漁業者は、ベテラン漁師や地域や県を越えた漁業者間のネットワークから、経験・知恵、漁業で儲かる様々なノウハウを得るとともに、新たな技術を取り込んでいくことで、より生産性の高い漁業を行っています。
- 産地で加工して出荷する流通が増え、加工残渣が養殖の餌に活用されるなど、環境にやさしい養殖スタイルが広がっています。
- 漁協は、全国の多様な運営形態の漁協とコミュニティで繋がり、漁業経営や漁協の運営方法、課題などを共有し合い、学びながら、組合員の生産活動に貢献しています。



“水産物の宝庫”として注目される長崎県

国内外から選ばれる長崎産水産物

- 生産・流通に関わるすべての事業者が、鮮度保持の重要性や食材の安全・安心を心がけ、船上から水揚げ、消費地までの流通過程で温度管理が徹底された長崎産水産物の品質や鮮度の良さがデータで見える化され、魚を購入したり飲食店で注文したりする際に、「長崎県産」を選ぶ消費者が増えています。
- 熟練の生産者が処理した最高品質の魚介類が、流通に携わる全ての人を満足させながら消費者まで届き、消費者の好意的な反応がSNS等のネットワークを介して生産者にも還元され、漁業者のプライドやモチベーションを更に高める好循環が生まれています。
- 圧倒的な魚種の多彩さを強みに、「長崎に行くと食べたい魚が食べられる」「長崎の産地でしか食べられない」という期待に応える売場や食事処が県内各地に広がっており、地元県民、観光客やビジネス客などの目的となって盛況し、未・低利用魚は魅力的な食材となって消費されています。
- 長崎県民は、地域で新鮮で美味しい魚が食べられ、県内の学校給食でも地元の魚が日常的に提供されており、子どもたちが魚に親しみをもち、魚好きが増えている状況を誇りに思っています。
- 美味しい魚や漁師のこだわりを消費者に届ける本県と全国の水産関係者の努力によって、魚の消費が肉の消費を上回っています。
- 長崎県が「水産業界の西の横綱」としてメディアで取り上げられ、「魚=長崎(Nagasaki)」のイメージが全国、世界に浸透し、日本を代表する食材として高く評価され、多方面から求められています。



それぞれの能力と感性を活かし、変化する水産業界で輝く多様な人材

- 経営感覚に富んだベテラン漁師が、海洋環境の変化にも順応しながら戦略的に漁業を営み、“一步先”の水産業界をリードし、地域社会を支える柱となっています。
- 新規就業者が、各漁協の青壮年部や地域を越えたコミュニティなどの様々な輪に加わり、先輩漁師に学び、同年代で技術を高め合いながら次代の担い手となる良い流れが生まれています。
- 漁業者が漁業で安定した所得を得て、安心して子どもを育てることができ、趣味や家族との時間も確保できる、充実した魅力ある働き方が増えています。
- 水産業界でも、現代の多様な働き方に対応した柔軟な雇用や就業の環境が整備され、若者や女性、外国人材が貢献できる領域が増えており、現場に新たな視点や活力をもたらす、更に多様な人材を呼び込む好循環が生まれています。
- 子どもたちの周りは、学校や地域行事などで、水産業界の体験や海の生物に触れる経験、魚食を学ぶ機会にあふれており、海や魚への興味から水産業界に関心を持つ若者が多くなっています。
- スマート水産技術が広がって、漁業に「稼げる」、「カッコいい」イメージができており、漁家子弟や漁師に憧れを持つUIターン者の若者が参入し、漁村に活気があふれています。
- SNSで発信される、水産業界に携わる人々のリアルな働き方や暮らしが県内外の若い世代の興味を引き、若者の挑戦意欲が高まり、漁業への就業に繋がっています。



地域内外に開かれ、交流を通して新しい価値を生み続ける港と漁村

- 県内各地の港には、特色ある新鮮で価値の高い海の幸が日々水揚げされ、海に近い長崎県ならではのクオリティ、コスパで味わえる水産物の売場が充実し、消費が増えています。
- 各浜独自の文化が根付いた特色あるイベントや、名物土産、食事や漁業体験の施設が充実し、観光ツアーが組まれるようになるなど、長崎県の漁村めぐりが休日の過ごし方の1つとなっており、地元の人にも自慢に感じています。
- 長崎県の「海業」が観光資産として確立・普及し、漁業や漁港に馴染みのなかった人が訪れ、漁業者と交流するなど、様々な体験を通じて水産業への興味関心を持つとともに、地元での魚の需要も増え、漁業者の所得が増えて浜が賑わっています。
- 引退した漁師が、船を動かしたり手早く魚を捌いたりできるプロの技を活かして、漁村で食や船上での体験を提供し、海での経験を語りながら漁業の魅力を伝えるシーンが広がっており、そのような取組が評判となって、長崎の漁業や魚に惹かれる人が増えています。
- 漁村を訪れた人々が、自然の美しさや豊かな食材だけでなく、漁村の暮らし、磯焼けや漂着ごみなどの地域課題に目を向け、地域とともに課題を解決していくスタイルの関わり方が広がり、そこから人と人の繋がりも生まれています。
- 通信インフラが整い、漁協施設や空き家を活用した憩いの場やワーキングスペースが漁村にでき、自然と美味しい食材に囲まれた生活に憧れる人々のワーケーション等が更に促進され、交流人口が増加しています。

- マリンレジャーや食を目的に訪れた方が、地域の魅力に引き込まれ、定住し地元の一員となっています。様々な経歴の方が新たな風を吹き込むことで魅力的に変化する浜には訪れる人が後を絶ちません。

